

根治を目指し手術も

病院の力 病実

* 奈良編70

てんかん治療

うち、15歳以下の子どもが患者数も記した。治療の中心は、抗てんかん薬による薬物療法だ。患者の6割以上は、1剤、あるいは2剤の併用で発作を抑えることができる。

また、残る3割程度の患者は、薬が効きにくい難治性のものである。その場合でも、発作の原因部位を切除することで根治できることがある。紙面では根治を目指して行われた2012年の手術件数を掲載した。

今回は、てんかん治療を取り上げた。てんかんは、けいれんを起したり、意識を失ったりする発作を繰り返す病気だ。発作は、ほんの一瞬だったり、数分続いたりする。子どもと高齢者が発症しやすく、患者数は100万人と推定される。

一覧表では2012年の新規の入院・外来患者数に医療機関ごとに掲載した。

また、高脂肪で低糖質の食事を取ると、発作の回数が減るとの研究報告がある。詳しい仕組みは分かっていないが、患者を入院させ、この食事療法を行った治療実績も一覧にした。

*全国の調査結果は「暮らし健康面」に掲載しています。

国立病院機構奈良医療センター
星田 徹院長



脳波との関係ビデオ検査

奈良市の国立病院機構奈良医療センターは2010年、薬物治療から手術までを包括的に担う「てんかんセンター」を開設した。専門医2人と小児神経科医、薬剤師、患者や家族の心のケアを受け持つ臨床心理士らが一体となったチーム医療が強みで、星田徹院長(61)は「患者に合った治療をし、社会生活を支える」とが最大の役割です」と力

てんかんは、電気信号のやりとりで情報を伝える脳神経のバランスが崩れ、一時的に脳内に過剰な電流が流れるために起きる。頭のけがや感染症による脳炎、脳の構造の細微な変化などが原因は様々だ。

センターでは、より確実に診断するため、発作と脳波異常の関係性を調べる「ビデオ脳波モニタリング」を

あすのこよみ

11月4日(月曜日)
旧暦10月2日 大安

日出	6:20	月輪 0.6
日入	17:00	
月出	6:49	月輪 0.6
月入	17:34	

行っており、11月にオープンしたばかりの新病棟には専用の検査室を2室設けた。てんかん患者の3割が、心因反応や失神などの誤診という報告もあり、「近年は、高齢者にも患者が多いことが知られる一方で、認知症と誤るケースもみられる。慎重な診断が大切」と説明する。

治療では、新しいてんかん薬を投与して効果や副作用を調べる治療にも積極的だ。ここ数年、多くの新薬が出て、治療の選択肢が広がっている。薬で発作を抑えられず、原因となる部位が脳の機能に影響しない場合は手術を行う。手術ができなくても発作を抑える迷走神経刺激療法や栄養士と連携した食事療法も取り入れ、「発作は的確な治療でコントロールできることが多い。心配なことは何でも相談してほしい」と話す。

てんかん患者は、発作時以外は普通に暮らせるが、偏見による学校でのいじめや就労の問題、運転免許の取得・更新の制限などに悩むことが多い。センターで

は、患者団体の「日本てんかん協会奈良支部」などが開く医療講演会や公開講座に医師を派遣して啓発するほか、就業支援センターや特別支援学校と連携して支えるシステム作りにも取り組む。「病気を正確に知り、地域社会全体で病気に向き合うことが必要です」と理解を求めている。